



中内学園・流通科学大学 創設者 中内 功の原点

第二次世界大戦下。フィリピン戦線に送り込まれた中内功は
連合軍の上陸に合い、ルソン島山中を敗走することに。

そこで一番苦しられたのが、“飢え”でした。

自分の靴をかじって空腹感を満たすほどの、極限状態ともいえる飢餓感。

最後の突撃で瀕死の重症を負った中内功は
薄れゆく意識のなかで願ったといいます。

「もう一度、家族6人ですき焼きを食べたい」



その強い思いにより九死に一生を得て帰国した中内功は株式会社ダイエーを設立。

その根底には、戦争体験が生んだ“ある思い”がありました。

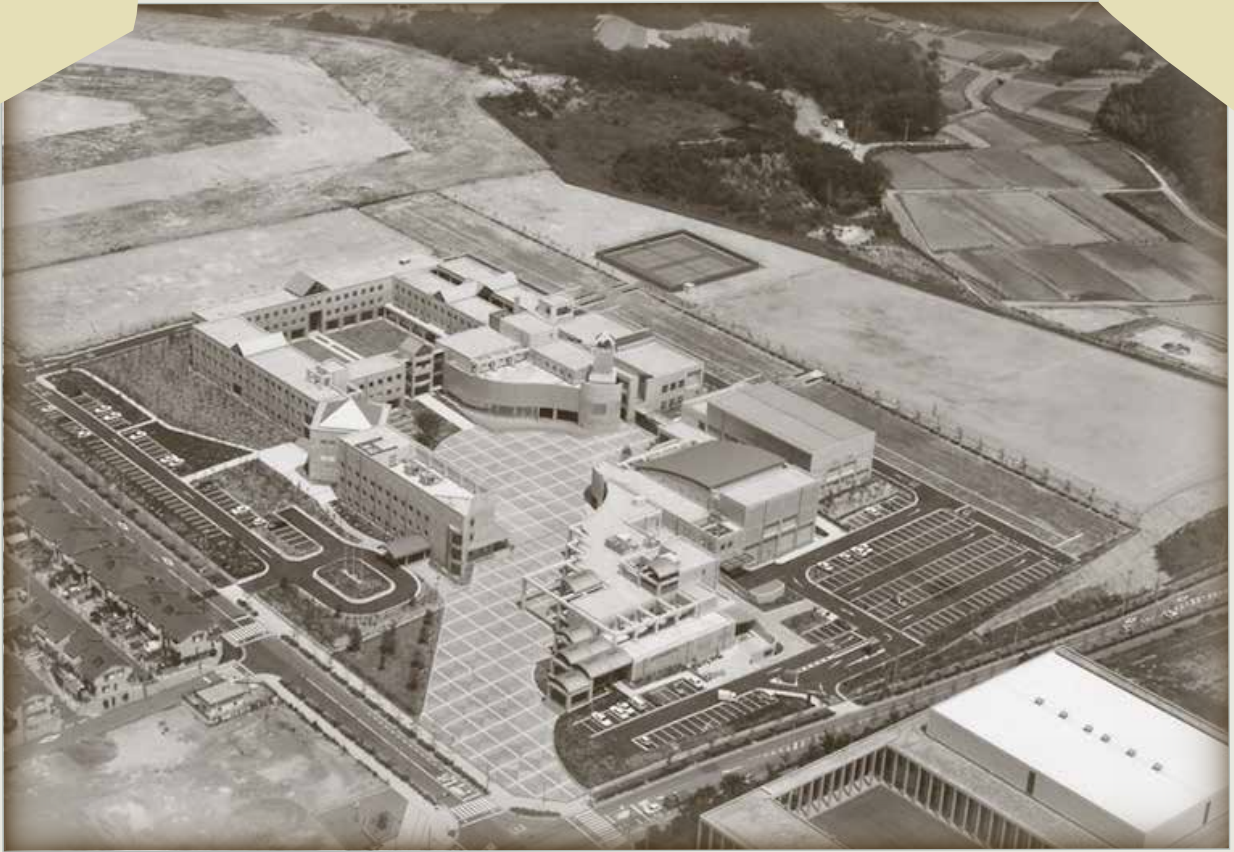
「好きなものを腹いっぱい食べられることが幸せだ。

これからは、餓えのない豊かな社会を作らなければならない。

流通が機能し、世界中に食料や資源が行き渡れば

人が争い、モノを取り合うことはなくなる」

『よい品をどんどん安くより豊かな社会を』を社是に全国展開を行い日本中どこでも、同じ品を同じ価格で提供する仕組みを作り上げていきました。



そして、1988年。

戦争を知らない世代に自身の信念を伝えるため

「流通を科学的に研究教育することを通じて世界の平和に貢献し
真に豊かな社会の実現に貢献できる人材を育成する」

という建学の理念のもと、学校法人中内学園 流通科学大学を創設。

これは、壮絶な戦争体験を経て

平和で豊かな社会の実現に、生涯を懸けて挑み続けた中内功が
日本の未来と次の世代へ示す意思、でもありました。



中内学園・流通科学大学が考える『SDGs』

単なる生産者と消費者を結ぶ“機能”として捉えられてきた『流通』も現代社会においては、人・モノ・金・情報・サービス等が複合的かつ機能的に活用されることによって成り立っています。

『流通』とは、人の生活の基盤である社会システムそのもの。

そんな意味合いを持つようになってきました。

今後、『流通』の社会的役割はますます大きくなっていくでしょう。



だからこそ、改めて『流通』を見直し

“21世紀型”の『流通』の形を再構築し（流通革命）

「欲しいものを、欲しい時、欲しい所で

欲しい量、欲しい価格で手に入れることができる」仕組みと

心の豊かさを伴った『真に豊かな社会』を創り（生活革命）

日本と世界の人々の生活の質の向上と

平和に貢献できる『人材』を育成する。

それが、中内学園の“使命”だと考えています。



そして、その実現こそが、中内学園 流通科学大学の考える『SDGs』
です。

ここに挙げた『社会・地域貢献』活動は、そのひとつ。

「世界の平和に貢献し、真に豊かな社会の実現の貢献へ」

中内功が示した意思を受け継ぎ実現するために

今後も積極的に『社会・地域貢献』活動に取り組んでいきます。